

## 重点戦略

## 3 まちの活性化と知名度アップ

## まちづくり宣言9 環境先進都市を目指したまちづくりを進めます。

## 1 現状認識

- ・低炭素社会の実現への動きは、世界規模で活発となっており、温室効果ガス<sup>\*1</sup>の大幅な削減が求められています。
- ・本市では、市民の環境問題全般に対する意識が高まり、ごみ排出量は、平成17年度をピークに毎年減少しています。
- ・しかし、最終処分場の延命化を図るためには、さらなるごみの減量化が必要です。また、ごみ処理施設の更新に伴う経済的負担も大きな課題となっています。
- ・本市は、牛久沼をはじめとする豊かな自然環境に恵まれています。良好な環境を次世代へ引き継ぐために、環境負荷の低減に向けた取組をさらに推進していくことが求められています。

## 2 宣言が目指すまちの姿

市民・事業者・行政が協力して、低炭素社会・循環型社会構築のために積極的に取り組み、自然・人にやさしい「環境先進都市・龍ヶ崎」を実現しています。

## 3 実践に向けての考え方

## (1) 低炭素社会の実現

クリーンエネルギー<sup>\*2</sup>を積極的に推進し、CO<sub>2</sub><sup>\*3</sup>の削減に努めます。

## (2) ごみ減量化の推進

生ごみをはじめ、ごみの減量化を推進します。また、家庭系ごみの排出量に応じた費用負担の導入なども視野に入れながら、ごみ排出の抑制と4R（Refuse：断る、Reduce：減らす、Reuse：再使用、Recycle：再利用）の定着を図ります。

## (3) 自然環境の保全

市民・事業者・行政が協働し、豊かで美しい自然環境を将来世代へ引き継ぎます。

## 市民の役割

環境問題に関心を持ち、より環境負荷の低い生活スタイルへ変えていくとともに、ごみの再資源化に努めます。

## 行政の役割

環境問題に関する情報発信に努めるとともに、ごみの適正処理、環境保全の推進に努めます。

<sup>\*1</sup>温室効果ガス：大気圏にあって地表から放射された赤外線の一部を吸収することにより温室効果をもたらす気体の総称。対流圏オゾン、二酸化炭素、メタンなどが該当する。近年、大気中の濃度を増しているものもあり、地球温暖化の主な原因とされている。

<sup>\*2</sup>クリーンエネルギー：[Clean Energy] 電気、熱などに変えても二酸化炭素、窒素酸化物などの有害物質を排出しない（または少ない）エネルギーのこと。一般的には自然エネルギーである太陽光発電システム、太陽熱温水器、水力発電、風力発電、地熱発電など。

<sup>\*3</sup>CO<sub>2</sub>：二酸化炭素。

#### 4 主要事業

主要事業名	内 容
優先プロジェクト 自然エネルギーの利用促進 新規	太陽光発電システム <sup>*1</sup> などの自然エネルギー導入を促進します。
高効率照明(L E D <sup>*2</sup> )の普及促進	公共施設を中心にL E Dの導入を進めるとともに普及促進を図ります。
バイオマス <sup>*3</sup> 利用の拡大	現在公用車で利用している廃食用油をリサイクルしたバイオディーゼル燃料(B D F)をはじめとした、バイオマス利用の拡大に努めます。
生ごみ減量の推進	燃やすごみの多くを占める生ごみの堆肥化等を進め、生ごみの減量化を図ります。
地域リサイクル事業の充実	ごみの減量化と再資源化を推進するため、サンデーリサイクル事業の充実を図ります。
クリーンプロジェクト	市民・事業者・行政の協働による、牛久沼などの自然環境保全や身近な地域の環境美化活動を推進します。また、歩きたばこ・ポイ捨て等禁止条例に基づき、パトロールや清掃活動の拡大を図ります。

#### 5 数値目標

指 標 名	ベース値	目標値
1. ごみ収集サービスや資源リサイクルに満足している市民の割合(%) ※ごみ収集サービスや資源リサイクルに関する市民の評価を見る指標	74.1	79.1
2. 地域をきれいにする活動や公衆衛生に満足している市民の割合(%) ※身近な地域の環境美化に関する市民の評価を見る指標	49.2	54.2
3. 市民一人が1日に出すごみの量(家庭系ごみ)(g) ※市民のごみの排出抑制への取組状況を見る指標	649	550
4. ごみの資源化率(%) ※市民のごみ資源化への取組状況を見る指標	16.1	22.0
5. B D F 燃料使用によるCO <sub>2</sub> 削減量(kg) ※B D F活用の進捗状況を見る指標	5,346	8,910
6. L E Dを導入した主な公共施設数(件) ※主要な公共施設へのL E D導入状況を見る指標	1	6

\*1太陽光発電システム：太陽の光エネルギーを直接電気に変換するシステム。発電時にCO<sub>2</sub>を発生しない、余剰電力を電力会社に売ることができるとの利点がある。

\*2L E D：[Light Emitting Diode] 発光ダイオード。コスト削減だけでなく、CO<sub>2</sub>削減、発熱が少ない等の利点がある。

\*3バイオマス：[Biomass] 樹木、草、海草、農産廃棄物、林産廃棄物などの大量に存在する生物資源。地球温暖化の炭酸ガス排出量にカウントする必要がない再生可能エネルギーであり、地球温暖化防止のためにも、今後の有効利用が期待されている。